

ノハナショウブの株を残しながら雑草を刈り取る学生ら＝五所川原市の津軽飯詰駅



ノハナショウブ楽しんで

五所川原

五所川原市飯詰の市民団体「飯詰を元気にする会」は5日、同地区に立地し交流のある東北職業能力開発大学校青森校の学生と合同で、津軽鉄道・津軽飯詰駅周辺の草刈りを行った。

技術科の1年生16人が参加。学生たちは軍手と鎌を手に、花の株に傷をつけないように注意しながら雑草を刈り取っていた。

電気エネルギー制御科の野内心音さん(18)は「きれいに咲いた花を見て、乗客たちが楽しい気分になってほしい」

飯詰駅周辺 住民と学生が草刈り

同駅のホーム沿いには1985年、津鉄開業55周年を記念してノハナショウブが植えられた。合同の草刈り作業は、きれいに咲き誇るショウブを乗客にも楽しんでもらうと、数年前から実施している。

この日は生産技術科、電気エネルギー制御科、電子情報

と話した。

黄色のキショウブが咲いた後、6月中旬ごろから濃紫色のノハナショウブが見ごろを迎える。同会の岡田千秋会長は「住民だけだと手入れは大変で、学生の協力はとても助かる。津軽飯詰駅を花の駅にしたい」とアピールした。

(秋元宏宣)